海外駐在員現地レポート・上海事務所（2024 年１月）

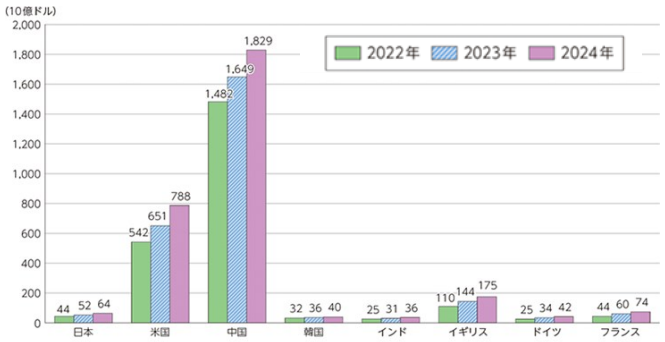
報告者　日中経済協会上海事務所 北海道経済交流室長　廣瀬　彩

（件名）生活に欠かせないモバイル決済ついて

1. 世界トップのモバイル決済普及率

モバイル決済は、QR コードを読み取るだけで決済が完了する仕組みです。

昨年 12 月 28 日、中国人民銀行（中央銀行）の副総裁が「中国の個人の銀行口座保有率は 95%を超え、中・高所得国の平均水準を上回り、モバイル決済普及率は 86%に達し、世界トップになっている」と発表しました。



各国のモバイル決済取引額（2021 年）
総務省令和 5 年情報通信白書より

モバイル決済が普及したの理由は、配送費が非常に安く、生鮮食品や日用品、衣服や家電など様々なものをネットで購入する中国ならではの生活スタイルにあると言われています。モバイル決済市場の 9 割以上を占める 2 大サービス「支付宝（Alipay）」と「微信（Wechat）」が事業者・利用者の双方から手数料を取らず、事業者が専用端末を用意する必要がないことも、クレジットカードではなく、モバイル決済が浸透した背景にあると考えられます。

2. 日常生活におけるモバイル決済

私自身、中国で現金を使用したのは赴任直後の２日間のみで、普段は財布を持ち歩かず、全てをモバイル決済に頼っています。

小さな店でも設置されている QR コード

例えば、出勤で使うレンタサイクルは乗り降りの際に自転車に付いている QR コードをスマホで読み取ると、下車後に距離と時間から料金が自動計算されます。スマホアプリで出前を注文すると、画面上に配達までのカウントダウンが表示されます。オフィスビルなどには出前配達専用のロッカーが設置され、スマホに配達完了のメッセージが来たら、ロッカーの QR コードを読み込みます。自分の商品が届けられた棚のドアだけが開き、商品の取り違え・盗難も防いでくれます。タクシーは配車アプリで乗下車位置を指定すると、事前に車の色やナンバー、到着までの時間、渋滞の有無を勘案した料金が提示され、お釣りのやり取りも不要です。

いずれもサービスを受けたあとに、料金が自分の銀行口座から自動的に引き落とされます。チケット手配や医療機関の予約・支払いなど、モバイル決済で支払いができないものを見たことがありません。

3. 今後について

1990 年代後半から、日本でもコンビニやショッピングモール、空港などの中国人観光客が多く訪れる場所では、前述の「支付宝（Alipay）」・「微信（Wechat）」によるモバイル決済対応店舗が増えてきています。

日本と中国の間には様々な事情がありますが、北海道に憧れや好感を抱く中国人は非常に多く、当事務所にも北海道旅行の相談が多く寄せられます。

かつてのような「爆買い」はなくなったと言われていますが、中国人は買い物、特に家族や友人へのお土産購入が大好きです。北海道を訪れる中国人観光客にとって、自国で使用している支払方法が使えることは、一つの魅力に感じられるかも知れません。

また、モバイル決済サービスの提供有無にかかわらず、彼らが普段、現金やクレジットカードを使用していないことを理解して対応することも、大切なおもてなしになるのではないでしょうか。